

「ここで暮らしたい！」 の想いをつなぐ

2022

日時 ▶ ①11月25日(金)13:30~15:30
②12月2日(金)13:30~15:30

定員 ▶ 30名

場所 ▶ ① 岩国市民文化会館 第1研修室
② 岩国市民文化会館 第3研修室

対象 ▶ 若者・移住者・市民活動団体

参加費
無料

① 基調講演・ワークショップ

いつまでも地域や集落で暮らすために何が必要か語り合い、
ヒントを得る



講師 安藤 周治 氏

講師プロフィール 安藤周治 氏

(NPO法人ひろしま NPO センターNPO 法人ひろしまね理事長)

1948年広島県生まれ。柏屋安藤製菓舗店主。

60年代から青年活動を国立江田島青年の家(現国立青少年交流の家)を拠点として係わる。その後過疎問題・地域づくりに取り組み続ける。過疎を逆手にとる会の会長や広島・島根県境域の集落支援などを旨とする「特定非営利活動法人ひろしまね」の理事長。「特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター」の代表理事。

広島県の河川や道路、生涯学習、男女共同参画社会等の審議会委員。総務省の過疎問題懇談会委員や同事業評価会員、国土交通省の「水の里の旅コンテスト」の審査委員長や水源地域支援ネットワーク会議の運営委員代表などを務める。

1991年には、ふるさとづくり大賞 個人の部 内閣総理大臣賞を受賞された。

② シンポジウム

地域資源の利活用を図り、貨幣価値換算した事例紹介を
聞き、成果を共有する

パネリスト(詳細は裏面に)

中倉あすなろ会

事務局 中部俊之さん



鼻山つつじ愛好会

代表 升田清甫さん



元地域おこし協力隊

美川町集落支援員 藤田陽子さん



(お申込み・お問合せ) いわくに市民活動支援センター(フジグラン岩国4F)

Tel 0827-30-9030 Fax 0827-30-9061

E-mail shien@poem.ocn.ne.jp

申込用紙裏面

お名前	年代	性別	ご所属	連絡先	住所

◆感染予防対策へのご協力をお願い

ご来場の際は、マスク着用など咳エチケットへのご協力をお願いします。また、発熱(37.5℃以上)、風邪の症状のある方は参加をご遠慮ください。

実施時期の状況によりオンライン開催等に変更する場合がございます。ご了承ください。

中倉あすなろ会

里山に住む私たちの日常の中にある“あたりまえ”を見つめなおし、今ある里山の資源で担い手不足、耕作放棄地、山林荒廢、景観悪化、有害鳥獣被害等の地域課題に対し、様々な取り組みを開発しています。

耕作放棄地を活用したそばづくり、収穫イベントや国際交流のそば打ち体験、支障木の伐採木を活かした薪づくり、薪の販売など様々な活動を通して、地区内外の交流機会の創出や活動資金の確保、地域のつながりを強め、孤立防止や景観の保全等のさまざまな成果を生み出しています。

できることとできないことを整理し、不得意なことはそれを得意とする組織や個人とwin-winの関係を構築し、新たなネットワークを拡大してきました。

里山の資源を活かした人と人の繋がりが、中倉と地域の人たちの未来を元気にしています。

鳥山つつじ愛好会

美川町根笠山之内の旧根笠小中学校の跡地、根笠運動広場の昨年3月23日の様子です。学校林の鳥山に自生している山つつじとソメイヨシノのピンクの濃淡が見事です。7年前に、つつじの山を維持していきたいとの思いで山之内自治会の有志で「鳥山つつじ愛好会」を立ち上げ、年に5~6回の広場の草刈りとつつじの山の整備をしています。高齢化と少人数で難しいこともあり、「ふるさと応援しちゅう隊」のボランティアを募集。仲間を作り維持管理活動を一緒に頑張っています。その他、活動していることにより、色々な方々のお手伝いをいただき鳥山は維持されています。今年度、てんぐす病の除去作業をし、この活動をするにより各地から花を見に来る人が増え、地域の活性化が図られています。

元地域おこし協力隊

(美川町集落支援員)

R1年8月、広島市より岩国市美和町へ家族で移住。R4年3月末まで地域おこし協力隊、5月より美川町集落支援員。他に音楽業、グラフィックデザイン業など、得意な事を活かしながら里山暮らしを満喫しています。協力隊時代は、弥栄湖周辺の観光振興と移住定住促進を軸に活動し、「観光は移住の入り口」という気付きを得ました。

観光客が、観光スポットを超えた先にある美和町の“素”の魅力を知ることで「遊びに行く町が住みたい町に変わる」と仮説を立て、R3年にその仕組み作りをおこないました。

成果として近郊都市ファミリー層向けのPRツール「美和町コミュニケーションガイドブック」を作成。小さな立ち寄りスポットを巡り体験や交流ができるプランを提案しました。また自らスポットのひとつになるため創業した「アトリエワリババ」では、地域の朝市訪問と西アフリカの太鼓「ジェンベ」の体験をセットにした合わせ技ツアーの企画など、訪問客増に取り組んでいます。